

送辞



一月に降った雪もすっかり解け、春の陽気に包まれる季節となりました。

三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

私が中学校に入学する前に抱いていた「先輩」という言葉のイメージは、「怖い」「関わりづらい」というものでした。しかし、私たちの先輩であるみなさんは、中学校入学前の私のイメージとは違い、とても接しやすい方ばかりでした。私が三年生の校舎に行ったときは、私に声をかけてくださったり、あいさつをしてくださったりしました。特に私が所属している吹奏楽部の先輩方とは関わることも多く、部活動のときも、学校生活でも私に優しく接してくださいました。

みなさんが最高学年となった今年を振り返ると、新型コロナウイルスの影響が大きかった一年でした。学校が三か月間休業になったことで、学習や部活動、進路のことで不安に思うことが多かったのではないかと思います。また、一生で一回の中学校での修学旅行や中学校生活最後の学校祭なども規模が縮小となり、三年間努力して

きた部活動の大会やコンクールも、中止や延期、規模が縮小となるなど、一年間を通して悔しい思いが残ることも多かったと思います。

しかし、コロナ渦で行われた二日間の学校祭での皆さんの姿は、とても強く印象に残っています。

文化祭での吹奏楽部三年生の演奏は、一緒に演奏している私も感動しました。また、クラスごとに披露された灯中ソーランでは、それぞれのクラスにそれぞれの魅力を感じ、鳥肌が立ったのを今でも覚えています。

体育祭では、例年よりも種目が少ない中、限られた種目を精一杯取り組む皆さんの姿はとてもかっこよかったです。また、応援合戦に向けての練習では、私たちに振り付けを根気強く、優しく、丁寧に教えてくださいました。生徒玄関に掲示してある一、二年生からの桜の木のメッセージにも、「応援の練習の説明が分かりやすかったです。」というコメントが多くありました。そうして迎えた応援合戦では、どの色も素晴らしい応援を作り上げていました。三年生全員で踊った灯中ソーランは、クラスごとの発表とは違った魅力があり、八月の夏の暑さにも負けない迫力がありました。

そうして、先輩方からたくさんの感動を与えてもらった今年の学校

祭は、例年とは形が違いましたが、すべての人が愉しみ、心に残る最高の思い出となりました。

これから先輩方が長く新たな道を歩むことは決して楽な道のりではなく、自分のやるべきことが分からなくなったり、立ち止まったりすることがあるかもしれません。しかし、灯明寺中学校で目標に向かって努力した日々や、どんなときも助け合い支えあったかけがえのない仲間、共に過ごし、学んだ経験はお一人お一人の心に宝石となって輝き続けるでしょう。そのような素晴らしい宝石を胸に、これからの人生、自分を信じ、勇気を持って未来へ向かい一步一步、踏み出してください。私たちも先輩方がこの灯明寺中学校に残してくださった伝統を引き継いでいくとともに、日々の学校生活を通して自分を成長させていきたいと思えます。

最後になりましたが、今まで私たちをよりよい方向へ導き、かけがえのない思い出を与えてくださったことに改めて感謝申し上げます。これからも楽しい人生を送って下さい。皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げ、送辞といたします。